

足立区 旧和井田家住宅

きゅうわいだけじゅうたく



古民家情報

建築年代:江戸時代後期

規模:桁行8間・梁間5間

構造:整形四つ間取り

寄棟造り・茅葺き

足立区指定有形民俗文化財

※現在、外観のみ公開しています。

旧和井田家住宅は、もともとは花又（明治22年に花畑となる）にあった古民家で、安永2年（1773）頃に生まれた和井田家中興の祖である半兵衛が江戸時代後期に建てたものといわれています。

和井田家住宅の特徴は、軒下に煉瓦が敷きつめられ、土間には煉瓦づくりのかまどがあることです。足立区は煉瓦産業が盛んな地域で、明治・大正期の当主であった健次郎は、花畑にあった帝国煉瓦という煉瓦会社の役員も務めた煉瓦づくりの技術者でした。和井田家住宅は、こうした足立区の近代産業の姿をも現在に伝えているのです。

昭和58年から都市農業公園への移築復元工事が始まり、翌年から一般公開されています。

ご利用案内・アクセス

開 9:30～16:00（第1・3水曜日休、水曜日が祝日の場合、翌日休）**料** なし

所 足立区鹿浜 2-44-1 都市農業公園内 **交** 東武線「西新井」駅西口から東武バス又は東口からはるかぜバス（鹿浜都市農業公園行）「鹿浜都市農業公園」（終点）下車

問 足立区地域のちから推進部地域文化課文化財係 **Tel.03-3880-5984 Fax.03-3880-5603**

その1! 間取り



見どころポイント!

戸口は建物正面に向かって右側にあります。現在はガラス戸ですが、本来はくぐり戸を取りつけた大戸（オオド）でした。戸口を入ったところが「ドマ」です。ドマの手前隅には、「コメビツ」という粃や米を蓄えておく倉庫があります。またドマの奥の隅には、「カッテ」と呼ばれる煮炊きをするための「カマド」を設けた空間があります。もっとも奥には、「ミソベヤ」がありました。またドマの一角には、真ん中に囲炉裏を設けた板敷きの間があります。当家の場合、縁台でその面積が拡張されています。居住の空間は、「イタノマ」「ヘヤ」「オク」「ザシキ」という、平面的に漢字の「田」に似た田の字型（四つ間取り）で構成されていました。ドマからザシキにかけて、ケからハレへと部屋の意味合いが変化して行きます。

その2! 見事な庇桁

ここも見どころ！
煉瓦づくりのかまど



庇を受けている庇桁は、長さが15m余、木口の周囲が1m10cmもある丸太で出来ています。川口市のお寺の建築材として使われていたものを和井田家が譲り受けました。庇は増築されたものですが、庇桁の迫力は大変見事です。